

下呂市 地域の危険度マップ

マップの縮尺は70,000分の1です。

この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の震害地図50000(地震調査)を複製したものである。
(承認番号 平19総復、第932号)

図中の国道・市町村境界は、国土数値情報を利用して描画しました。
(ファイル名: N01-07L-2K-21.txt, N03-11A-2K-21.txt)

○地域の危険度マップとは？

地震時に建物が受ける被害(倒壊率)を大字ごとに集計し、その大きさに従った階級(危険度)を付けました。

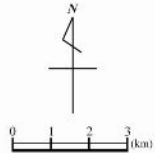
危険度は、建物の建築年次が古いほど、地震の震度が大きいほど、大きくなります。

震度は、想定被害地震(裏面:阿寺断層帯地震、高山・大原断層帯地震、下呂市直下の地震)による最大値を、約100m四方の区域ごとに求めました。

※注 危険度の計算は、平成19年現在の建築物分布地域周辺に限定して行いました。
また、個々の住宅・建築物の耐震補強状況は考慮していません。

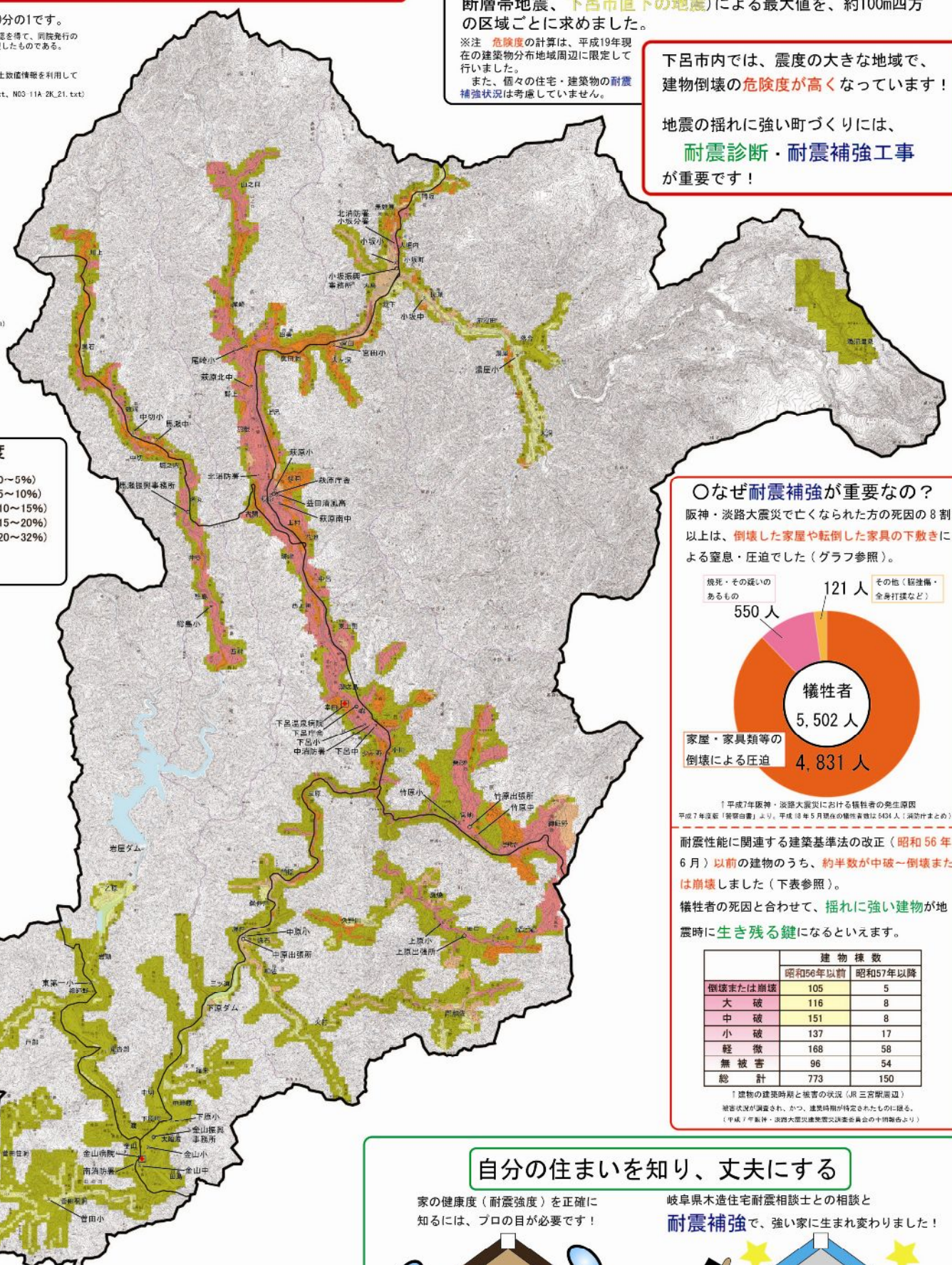
下呂市内では、震度の大きな地域で、建物倒壊の危険度が高くなっています！

地震の揺れに強い町づくりには、**耐震診断・耐震補強工事**が重要です！



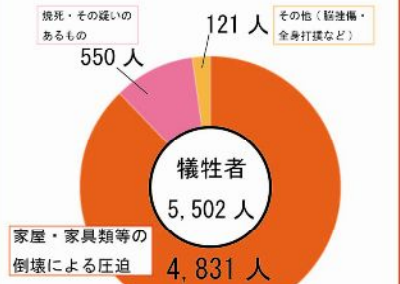
地域の危険度

- 危険度1(倒壊率0~5%)
 - 危険度2(倒壊率5~10%)
 - 危険度3(倒壊率10~15%)
 - 危険度4(倒壊率15~20%)
 - 危険度5(倒壊率20~32%)
- 国道
— 旧町村界



○なぜ耐震補強が重要な？

阪神・淡路大震災で亡くなられた方の死因の8割以上は、**倒壊した家屋や転倒した家具の下敷き**による窒息・圧迫でした(グラフ参照)。



↑平成7年阪神・淡路大震災における犠牲者の発生原因
平成7年厚労省「災害白書」より、平成18年5月現在の犠牲者数12,543人(調査件数との)

耐震性能に関連する建築基準法の改正(昭和56年6月)以前の建物のうち、**約半数が中破~倒壊または崩壊**しました(下表参照)。

犠牲者の死因と合わせて、**揺れに強い建物**が地震時に**生き残る鍵**になるといえます。

	建物棟数	
	昭和56年以前	昭和57年以降
倒壊または崩壊	105	5
大破	116	8
中破	151	8
小破	137	17
軽微	168	58
無被害	96	54
総計	773	150

↑建物の建築時期と被害の状況(JR三宮駅周辺)
被害状況が調査され、かつ、建築時期が特定されたものに限る。
(中破/半倒壊・倒壊大震災建築調査調査委員会の中間報告より)

自分の住まいを知り、丈夫にする

家の健康度(耐震強度)を正確に知るには、プロの目が必要です！

岐阜県木造住宅耐震相談士との相談と**耐震補強**で、強い家に生まれ変わりました！



耐震診断



耐震補強工事

下呂市建築物等耐震化促進事業費補助事業 (耐震診断・耐震補強工事の費用補助制度)

お問い合わせ先: 下呂市役所萩原庁舎
建設部建設課 (電話: 0576-52-2000)